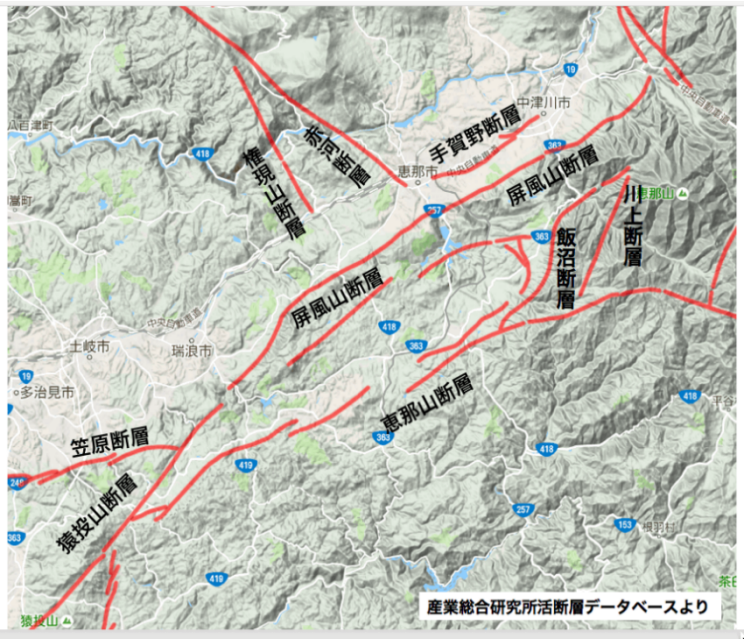
平成 28 年度　市民学術講演会　入場無料

☆テーマ　「～瑞浪を襲った地震、襲う地震～」

☆日　時　11 月 16 日（水）午後７時～９時
☆場　所　陶公民館 多目的ホール
☆講　師　公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所
副首席主任研究員 木 股 文 昭 （元名古屋大学教授）

私たちが生活する「瑞浪」その周辺には大地震の震源となる活断層が密集しています。
この地で発生した地震とその被害、地震活動に対する理解と、いつかは起こるであろう「その日」（地震災害）に対する備えについて、皆さんと共に考えてみたいと思います。

東濃は地震も年に１、２回しかなく、本当に地震の少ない地域です。本市での地震による犠牲者は 1891 年の濃尾地震まで遡ります。
一方、東濃は地震の震源となる活断層の密集域です。でも活断層も十分に解っていません。私たちは活断層を枕にして暮らしています。いつ地震が襲っても不思議でない地域で、いかに地震に備えたらよいのでしょうか。
恐らく襲うのは内陸直下型地震です。まず、家屋や家財の下敷きにならないこと、次に下敷きになった人の速やかな救助です。山崩れなどで孤立することも十分ありえます。１～２日は自分たちで生活する覚悟と備えが必要です。
陶町は高齢化と家屋の老朽化が市内でも顕著な地域です。となれば、災害時にみんなが助け合える町にするしかありません。日頃は楽しく暮らし、困った時は助け合える町にしたいものです。



（図：東濃地方に分布する活断層の地図）

〇主　　催　：（公財）地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所
〇後　　援　：瑞浪市・陶町連合区会・陶町明日に向って街づくり推進協議会
〇問合せ先　：東濃地震科学研究所 ☎67-3105

《東濃地震科学研究所の紹介》

内陸地震発生のメカニズムの解明と東濃地域など地域防災の調査研究を目的として、平成９年、地元の全面的なご協力の下に瑞浪市明世町に設置されました。
内陸地震の研究では、地下深部における地震波、歪、応力、地下水などの観測による解明が原点となります。深地層研究施設などを利用して構築した深部ボアホールの群列観測網により、足下で起きる小さな地震から、世界で起きる超巨大地震までを観測しています。

※　来場者には研究所発行のブックレット「東濃地方の地震とその災害」を資料として贈呈します。